

会議を終えた後、数人で久しぶりだから夕飯でも食べながらお喋りをしようという話になり、早速、皆が携帯電話で、今日は夕飯はいらぬよと連絡を入れ始めた。私も、夕方には帰るつもりで出てきたので家に連絡しなければならぬ。私の場合、相手は支度をしてくれるものと思っただけでいる人たちの間だから、この連絡は不可欠だ。公衆電話を探しに行こうとしたら、すぐに一人が、自分の電話を渡してくれた。使用方がよくわからず、ダイヤルまでしてもらって用事を済ませたのだが、今や私の仲間でもーということば、かなりの年配の人たちの間でも、携帯電話はあたりまえのものになっている。

# 時のおもり

## 生活感に接してきたい

中村 桂子

J T 生命誌研究館館長



携帯電話、携帯電話だ。最近、声を出している人より、指を動かしている人の方が多いが、何をやっているのさと思う不思議な思っている。

間相手でも、なんで怒っているのかわからないという場合がままある。でも、そんな時は、わからないながら、あれがいけないから、あれがいけないから、こう考えている。

### 携帯電話を持たない理由

どこにいてもメールのやりとりやインターネットでの情報入手が可能で、こんな便利なものはない、これが使いこなせない世の中から遅れまよと言われるだろう。最近、ディスプレイ・デバイスなどというカタカナ言葉で飾られるので、多くの人が恐れをなしているのではないだろうか。念のために用語辞典を引くと、「IT革命の進展で、新しい技術を使いこなせる人と使いこなせない人との間に格差が生まれている事象がある。高齢者と若者、先進国と開発途上国の間にみられる」とある。

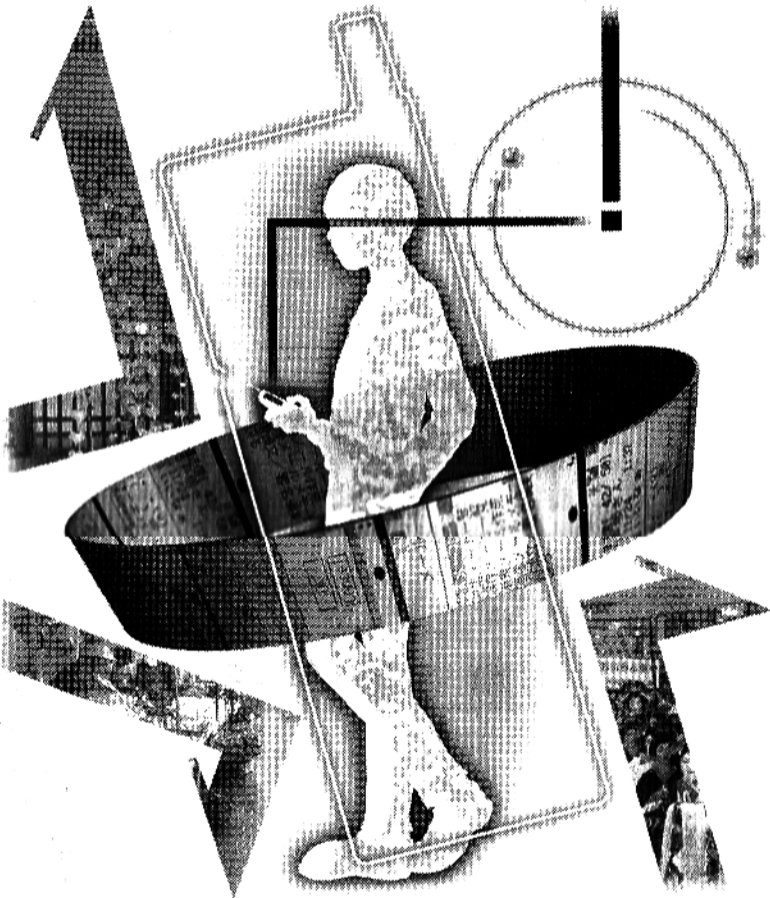
のかなと類推できるが、コンピュータの場合は、それができないのが困るのだ。そこで、周囲の誰かにお願いしてなおしてもらった後、どこがどうなっていたのか教えてもらおうとしても、ほとんどの場合、あれこれやってみたら動いたという話で終わってしまう。

有り難い世の中になったものよと言っほかない。しかし、そこまで、これを持ち歩こうという気にはなれない。

それはまた、周囲にいる人のつながりもない。最近、電車の乗降時に、できるだけ早くしようという意識なしに、ただ動いてますという行動をする人がふえた。乗降時だけでなく、ホームや階段の動きも同じ。親指を動かしながら歩くので流れに乗らない人が少なくない。公の場での行動になっていないのだ。そして、これが重要なことだが、小さい画面にインターネット

トから得るのは、どうしても情報になる。たとえば、本としてまとまって読んだ時に得られる刺激とそれを基に自分の頭をひねってあれこれ考えてわかってきた時の面白さは、携帯電話のやりとりとはまったく違う。携帯電話の便利さは認めたいが、それが主流になるのではない、じっくり考えたうえで発信する人々のつくる社会であって欲しいという願いから、周囲の人に、持っていないんだか、と冷たい目で見られながら、自分このスタイルで行こうと思っっている。

正直に言っても、コンピュータは得意ではない。ある時突然、理由がわからないまま動かなくなることもあるからだ。人



グラフィック・小川 直茂